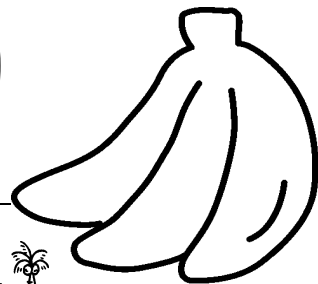


ばななだより

草笛学園 2024年 10月号



「読書の秋」「実りの秋」「芸術の秋」「食欲の秋」など、さまざまな「〇〇の秋」という表現があります。子どもたちにとっては何の秋でしょうか？

お外遊びも楽しい季節です。どんぐり拾いや秋ならではの虫探しなど、親子で一緒に楽しめると良いですね。

「4歳半のふし」を獲得する前の揺れ

発達のふしとは、今までの自分をいったんこわして新しい自分をつくる営みですから、多くのエネルギーが必要です。このエネルギーを高めていくとき、子どもは周囲の人間との間で大きな摩擦をおこすことがあります。発達のふしは、発達の危機ともいわれるゆえんです。

今までの自分をこわそうとすると、今までのやり方をしなくなったり、自分なりに新しいやり方をしようとして、周囲の人間の思いにさからうような姿をみせることもあります。そのため、現象的には、今までできていたことをしなくなったり、今までなら、「さすがおにいちゃん（おねえちゃん）だね」と言われると、がんばっていた子どもたちが、そういった励ましに対し、かえって反対のことをしたりすることがあります。「赤ちゃん返り」と言われる姿がこれまで以上に強まる時でもあるのです。下に弟や妹が生まれ、同じようにしてほしくておむつをしたがったり哺乳瓶を使いたがったりすることもあります。べったりと甘えてくることもあります。かと思うと、ネコになったかのように“ニャアニャア”とばかり言うこともあります。

子どもたちは、それまでのようにある意味でおとなからほめられる姿としての「おにいちゃん・おねえちゃん」になろうとして前向きに頑張るのではなく、もう一度、「おにいちゃん・おねえちゃん」になるということなのか、自分なりの「ねうち」をつかみなおそうとしているのだと思います。そのために、おとなから「おにいちゃんでしょ」「おねえちゃんでしょ」と言われることには強く反発し、そうではない自分を強く示そうと「おにいちゃんでしょ」と言われて、“チガウ、アカチャンナノ”と言ったりします。しかし、いったん自分をそうした「赤ちゃんの世界」や「小さい世界」において、つまりお

となの価値観との間で転倒した関係をつくったうえで、もういちど選びなおしていくことを子どもたちはしていきます。赤ちゃんとおなじように哺乳瓶で飲んでみて、そのときは甘えられてうれしかったけれど、やっぱりいろいろなものが食べられるおにいちゃん・おねえちゃんになる方がいいといったように、自分なりに大きくなることのねうちをつかみなおしていくプロセスが大切だと思います。そのためには、大きくなった自分を本当に実感できる場面が必要になるのだと言えるでしょう。今まで使わせてもらえなかった道具に挑戦したり、新しいお手伝いや役割をもつことで、本当のおにいちゃん・おねえちゃんになっていくのではないのでしょうか。

参考文献：『4歳児』 著：秋葉 英則・白石 恵理子監修



【11月のばなな教室】

ばなな①：11月 7日（木）13：00～ やまのぼり

〈持って来るもの〉リュック・水筒・帽子

☆長袖長ズボンできてください

☆保護者の方も一緒に登るので動きやすい服装で来てください

ばなな②：11月21日（木）13：00～ やまのぼり

〈持って来るもの〉リュック・水筒・帽子

☆長袖長ズボンできてください

☆保護者の方も一緒に登るので動きやすい服装で来てください

『参加される皆様へ』 ～ご協力をお願いします～

- ・お休みされる場合は、学園までご連絡下さい
- ・参加費はおやつ代の100円です。製作やクッキングの活動の時には材料費として追加で100円いただきます。その都度連絡いたします
- ・活動は主に、草笛学園遊戯室での活動となります
- ・水分補給のため、お茶を用意して下さい（ジュース類は控えて下さい）
- ・きょうだい児の参加はご遠慮下さい。預け先がない場合は事前に職員までご相談下さい
- ・トラブルによるケガ防止のため、参加前に爪を必ず切って下さい